

SGH 通信 STONE SOUP

Mishima-Kita High School SGH Newsletter

March 30, 2018 No. 8

発信、そして還元

SGH の事業を通じて生徒がグッと伸びて成長するのは、「自分たちがやっていることが社会につながっている」という実感を得た瞬間である。学校や教室の外の社会とのキャッチボールが成立すると、チームワークの歯車がカチッとはまり、想定以上のパフォーマンスが生まれる。29 年度の事業では新たに、2 年生の生徒チームが作った授業を生徒自身が三島市立山田小学校で実践したり、1 年生の生徒チームが提案した三島の水をテーマとしたスイーツを地元のカフェの協力を得て販売したり、海外研修参加の生徒が清水町や墨田区での市民講座に講師として研究成果を発表および考案した授業を実践した。SGH 最終年度は、さらに多様な形で社会へ発信し還元する生徒を育てたい。(SGH 推進室・中島由美)

3 月 11 日、「水の循環講座 (全 6 回) 一すみだと世界をつなぐ水の大切な話」(墨田区主催、NPO 法人 WaterAid Japan 企画運営) に参加し、2 つの授業を担当させていただきました。受講者は、水や環境について日頃から関心を持っている大人の方がほとんどでいつもとは異なる緊張感を味わいました。実際に授業をやってみると、グループワークにも積極的に取り組んでももらえました。そして何よりも私たちが伝えなかった生活排水についての現状や意識を多くの方々に知って



もらえて本当にうれしかったです。今回の授業を通して、人びとに伝えることの大切さや、この講座と同じ日に起きた東日本大震災の津波や災害時の水の確保大変さも改めて考えさせられました。今回の経験を生かし、また多くの人に水の大切さを伝えていきたいと思います。(16HR・柴田佳乃)

SGH 課題研究発表会 英語ポスター発表部門で金銀受賞

私たちのチームは 2017 年 12 月 23 日に立教大学で行われた SGH 課題研究発表会の英語ポスター発表部門に出場し、金賞をいただきました。発表会までに自分たちでパンフレットを作ったり、発表の仕方を工夫したりして、より自分たちの発表が印象的になるようにしました。これらは一緒にセッションを行ったチームの仲間がいてこそだと感じています。前回は銀賞で、今回は金賞をいただけた進歩のなかに、仲間とのつながりに対する意識の変化があるからだと思います。また、同時に参加した 1 年生のチームも銀賞を受賞しました。



(21HR・渡辺晏子)

1. 事業報告会ポスターセッション

平成 29 年度 SGH 事業報告会を 2 月 7 日、三島市商工会議所会議室で開催しました。午後に行われた生徒課題研究ポスターセッションでは、1、2 年生の HR 代表と海外研修を受講している生徒の合計 20 チームが研究成果を英語で発表しました。

- 多くの人の前で発表するのはとても緊張したが、始めてみると自分たちの研究を聞いてもらえてとても嬉しかったし、楽しかった。また、HR 内発表では気づかなかった研究の盲点にも第三者目線からの意見によって気づけた。(13HR・柿沼千尋)
- 英語のスキルアップにつながる良い機会だった。仲間と水問題についてより深く根拠のある調査のために試行錯誤を繰り返し、粘り強く活動に取り組めた。GWI は他校にはない良い特徴だ。HR 代表として発表できたのは貴重な経験だった。(27HR・山崎珠楽)
- 多くの人とセッションできてとてもよかった。自分たちだけでは思いつかなかった面白いアイデアも出て楽しかった。自分たちの研究を発表する最後の場として、自信を持って臨めたことが何よりも嬉しかった。(海外研修・笠原恋音)

2. 課題研究の成果を小学校 WS で還元

2 年生の有志 4 人が 2017 年 10 月 13 日、学校設定科目 GWI のグループワークで作成したオリジナルのゲームを使って、三島市立山田小学校で児童を対象に、水に対する意識を高めるためのワークショップを実施しました。



- 私たちは小学校でワークショップを開き、独自に考えた水意識を高められる「人生ゲーム」を小学生に体験してもらいました。水問題によって自分たちの生活からは考えられない生活を送っている人々がいる—そういった人々に自分たちはどういった貢献ができるのか考えてもらう内容にしました。世界的視野から日本の「水」の消費の現状を理解してもらい、環境に配慮した消費生活を実践できる社会を私は作っていきたくです。(22HR・金野杏香)

3. Water Literacy Open Forum に参加

3 月 21 日、国際基督教大学で行われた「ウォーターリテラシー・オープンフォーラム」(WLOF)に参加しました。生徒はポスター発表をするとともにアクティビティの授業者として活動しました。



- WLOF に参加し、私は水に関する見聞を深めることができました。様々な分野の専門家の方々の授業を受け、まだまだ知らないことが多いことに気づかされました。なかでも特に世界には 32 億人もの人が衛生的なトイレを使用できていないという話が印象的でした。私は海外協力の仕事に興味を持ち始めたので、「水は生命の源」というテーマを忘れずに積極的に行動しなければならぬことも再確認できました。世界の水問題への意識をさらに高く持ち、来年の GWI も精力的に取り組んでいきたいです。(15HR・岩田怜真)

4. SGH 海外研修の成果を地域イベントで発表

SGH 海外研修として 2017 年 8 月ベトナムのハノイでフィールドワークを実施した生徒 12 人は 1 月 13 日、静岡県清水町のミニ講演会「泉のまちカレッジ」(NPO 法人ウォーター・ビジョン企画運営)で、ベトナムの水事情に関する課題研究の成果や現地高校生との交流について発表しました。

- 私たちは、SGH の活動で行っている水についての研究を発表する機会をいただきました。普段は英語でのポスターセッションが多いのですが、今回は日本語でプレゼンテーションを行いました。プレゼン後には質疑応答の時間があり、多くの質問やアドバイスをいただくことができました。第三者からの質問やアドバイスは私たちの発表を改善するうえでなくてはならないものです。今回いただいた意見を取り入れ、より良い課題研究にしていきたいです。(16HR・井草七海)

5. 国際交流部が全国高校生英語ディベート大会出場

●2017 年 12 月、東京国際大学を会場として開催された全国高校生英語ディベート大会に出場しました。はじめはディベートが嫌いでした。夜まで学校に残り家に帰ってもその延長で勉強に手が付かず焦りました。しかし、県大会で準優勝し大舞台に立てたのは、大切な仲間と頼れる後輩の存在が大きかったです。ディベートではチームワークが大切で、対戦相手の情報収集等、結束力があつたからこそ出場できました。今はチームワークが求められるディベートが好きです。ここで学んだことを、今後どう生かしていくかが今の私の課題です。(22HR・渡邊了英)